

第15回柿田川シンポジウム『小動物からなにが見えてくるか』～柿田川生態系研究会～

自然環境グループ 研究員 澤田 みつ子
主席研究員 宮本 健也

平成30年11月17日(土)、三島市民文化会館(静岡県三島市)にて、「第15回柿田川シンポジウム(主催:柿田川生態系研究会,代表:加藤憲二 静岡大学名誉教授,事務局:リバーフロント研究所)」が開催されました。

柿田川に関心を有する市民を含め総計109名が参加、柿田川の環境について議論を行いました。今回は、地元の高校2校が部活動の一環として参加し、若い世代の参加に対して、会場から好評と期待の声がありました。

第一部 テーマ『小動物からなにが見えてくるか』

- ・佐藤慎一(静岡大学 教授)
「静岡県内の干潟における二枚貝類の分布と生態」
- ・塚越哲(静岡大学 教授)
「間隙性貝形虫類について-狩野川河口域を例として-」
- ・竹門康弘(京都大学 准教授)
「河川と地下をつなぐ河床間隙動物」
- ・東城幸治(信州大学 教授)
「底生動物からみる柿田川と狩野川つながり」

第二部 地域からみた柿田川～変化や取組み～

- ・漆畑信昭((公財)柿田川みどりのトラスト 会長)
「柿田川における自然保護活動」
- ・太田雅明(清水町 都市計画課長)
「柿田川における清水町の取組について」
- ・小南嘉宏(静岡県企業局 東部事務所柿田川支所 技監兼支所長)「地域とともに歩む駿豆水道」
- ・杉山紀行(国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所 副所長)「柿田川自然再生計画の取り組み」
- ・加藤学園高等学校 化学部「黄瀬川における化学的視点からの調査～溶岩石の浄化機能～」
- ・植田正光(前 狩野川漁業協同組合長)
「アユから見た柿田川」

第一部では、「小動物からなにが見えてくるか」をテーマに、4人の学識者が研究を紹介しました。河川の持つ特質である、海から源流部にかけての水流のつながりに着目し、この環境の変化の順を追う紹介としました。質疑応答では「間隙の浅い場所と深い場所の生態系の違いを知りたい」といった質問がされるなど、柿田川の環境と小動物の関係についての活発な議論が行われました。

第二部では、地域における関係者の取組みについて報告がありました。

柿田川みどりのトラスト会長の漆畑信昭氏からは、柿田川における長年にわたる自然保護活動のあゆみについて紹介頂きました。

加藤学園高校化学部からは、黄瀬川における溶岩石による水質の浄化機能(リンの除去作用)について、実験の結果を発表頂きました。高校生による口頭発表は、柿田川シンポジウムでは初めての試みでした。

また、狩野川漁業協同組合の前組合長植田正光氏からは、アユから見た柿田川についてとして、



図 満員となった会場

柿田川およびその本川である狩野川におけるアユの、遡上・産卵時期の特徴等について、ご発表頂きました。

参加者アンケートでは、「様々な視点から柿田川を見ており、とても興味を引く内容だった」、「柿田川で行われている様々な保全活動を知ることができた」、「柿田川の湧水を水源とする駿豆水道が函南や熱海まで送られていることに驚いた」という感想があり、参加者の柿田川に対する関心の深さを伺うことができました。

なお、シンポジウム会場の隣室では、各機関の柿田川に関するパネル展示を行いました。シンポジウムの発表者・発表団体から展示協力をいただき、柿田川を中心とした地域の河川について情報発信を行いました。



図 パネル展示会場の様子

※柿田川シンポジウムの開催記録は、ホームページ(http://www.rfc.or.jp/kakita_group.html)で3月頃に公表の予定です。